

Apprendre le français, c'est voir le monde

フランス語で出会う 多様な世界



[写真] フランス語圏地図 © Assistants FLE

フランス語を学ぶこと、それは世界に目を向けること、人間社会について多角的に考えることにつながります。

フランス語は、フランスだけのことではなく、欧州ではベルギーやスイス、アフリカではセネガルやニジェールなど、北米ではカナダ、カリブ海ではマルティニークなど、さまざまな国や地域で話され、公用語にもなっています。

世界各地で話されているフランス語は、多くの国際機関においても使用されています。将来、国際関係、国際金融、国際協力に携わりたい人は、きっとフランス語をとおして見る世界の虜になるでしょう。



[写真] フランス（パリ）



[写真]
フランス（モン・サン＝ミッシェル）



[写真] ニジェール（ガーロコイレ村）



[写真] カナダ（ケベック市）

明治大学協定先大学

リヨン政治学院（フランス）、パリ・シテ大学（フランス）、
ストラスブール大学（フランス）、リエージュ大学（ベルギー）、
モントリオール大学（カナダ）、レユニオン大学（フランス海外県）など



[写真] フランス（パリ）

フランス語圏の様々な風景



ニジェール（アフリカ）

かつてフランス植民地としての歴史を歩んできた国が多くあるアフリカ。そこでは、複雑な政治社会状況・生活状況のなかで、現地語とフランス語が使われています。将来的に、フランス語話者数は、アフリカの人口増大を背景に、英語に次ぐことになるだろうと言われているように、もはやアフリカなしでフランス語を語ることはできないでしょう。



〔写真〕 スールンドゥ



〔写真〕 カメレオン



〔写真〕 ニジェールの小学校のフランス語の授業



アルザス地方（フランス）

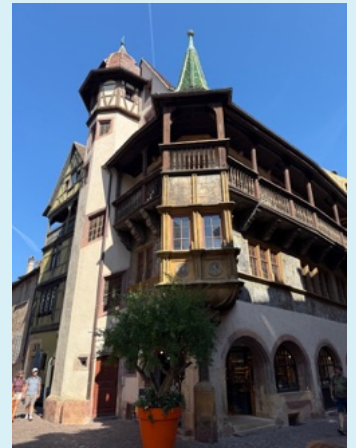
フランスにはフランス語の他、いくつかの地方語が息吹いています。ドイツとの国境に接するアルザス地方ではドイツ語の音に近いアルザス語が話されています。木組みの建築や食文化にも、国境地域が歩んできた波乱曲折な歴史がつまっています。



〔写真〕 シュークルート



〔写真〕 コウノトリ



〔写真〕 木組み建築



ケベック州（カナダ）

北米最大のフランス語圏ケベック州。その土地に何千年も前から住んでいた先住民の文化を取り入れながら、隣国のアメリカ合衆国の影響下で、フランスとは異なる豊かな言語文化が生まれています。



〔写真〕 プーティーヌ



〔写真〕 リス



〔写真〕 湖とカヌー